

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

国語 一―一	第五学年及び第六学年の内容 語い①	名前	年	組	番
-----------	----------------------	----	---	---	---

次の に当てはまる言葉をあとの から選び、書きましよう。また、その言葉の意味をあとのAからDの中から選び、（ ）に記号を書きましょう。

① 今日は友達と出かける約束をしていたが、雨が降^ふってきたので、出かけるのが わずらわしい。(A)

② 夏休みの三週間、祖母^{そぼ}の家で一緒にすごしたいとこと別れるのは、 なごりおいしい。(C)

③ 夏休みの最終日、線香花火^{せんこう}をしながら 物悲しい 気分になる。
(D)

④ 友達が、ぼくの尊敬^{そんけい}しているスポーツ選手の悪口を言っているのを聞き、 いまいましたい 気持ちになった。(B)

ものがな 物悲しい わずらわしい いまいましたい なごりおいしい

- A 心^{こころ}をなやますことが多く、気が重いこと。
- B 非常に腹立^{はらだ}たしく感じること。
- C 心がひかれて、別れるのがつらいこと。
- D なんとなく悲しい気分になること。

国語 一―二	第五学年及び第六学年の内容 語い②	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の に当てはまる言葉をあとの から選び、書きましよう。また、その言葉の意味をあとのAからDの中から選び、() に記号を書きましょう。

- ① 山本先生は、いつも 熱意のある 指導 しど をしてください。 (D)
- ② 彼はサッカーの歴史に 明るい 人である。 (C)
- ③ 彼は昔から 向こう見ず な人であり、心配だ。 (A)
- ④ わたしの父は、家族の考えにも反対することが多く 気難しい 人である。 (B)

きむずか 気難しい	明るい	向こう見ず	熱意のある
--------------	-----	-------	-------

- A 将来のことをよく考えずに行動してしま しょうう。
- B 何かと自分の考えにこだわったり、神経質 しんけいしつ だったりして、あつかいにくい。
- C その物事や方面にくわしい。
- D 強いやる気や意気 いき 込みをもっている。

国語 二一一		第五学年及び第六学年の内容 古文・漢文①		名前	年	組	番
				取り組んだ日			
				月			
				日			

げんだいごやく
現代語訳（例）

まくらのそうし
枕草子

せいしょうなごん
清少納言

むらさき
春は明け方がよい。だんだん白くなっていく山ぎわの空が、少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいているのがよい。

ほたる
夏は夜がよい。月のころは言うまでもないが、月のない闇夜でもやはり、蛍がたくさん飛びかっているのはよい。ただ一ぴき二ひきと、かすかに光りながら飛んでいくのも、しみじみとしてよい。雨などが降るのもよいものである。

からす
秋は夕暮れがよい。夕日が差して、山にとても近くなったところに、烏がねぐらに行こうとして、三羽四羽、二羽三羽などと、急いで飛んでいく様子までしみじみとしたものを感じさせる。まして、雁などが列を作っているのが、とても小さく見えるのは、たいへん味わい深いものだ。日がすっかりしずんでしまつて、風の音や虫の音などがするのも、言い表しようがなくよいものだ。

しも
冬は早朝がよい。雨が降っているのは言うまでもない。霜が真つ白なものも、またそうでなくても、とても寒いときに、火などを急いでおこして、炭を持ち運ぶ様子も、たいへん冬らしい。昼になって、寒さがやわらいでくると、火桶の中の火も白い灰が多くなつてきて、よくない。

国語 二―二	第五学年及び第六学年の内容 古文・漢文②	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

げんだいごやく
現代語訳（例）

たけとりものがたり
竹取物語

さくしやふめい
作者不明

たけとり おきな
昔、竹取の翁とよばれる人がいた。
翁は、野山に分け入って竹を取っては、
いろいろな物を作るのに使っていた。
名前を「さぬきのみやつこ」といった。

ちくりん
ある日のこと、その竹林の中に、
根元の光る竹が一本あった。
不思議に思っちかよて、近寄ちかよって見ると、
筒つつの中が光っている。
それを見ると、手にのるぐらいの小さな人が、
とてもかわいらしい様子ですわっていた。

国語 三――一	第五学年及び第六学年の内容 話し言葉と書き言葉①	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
------------	-----------------------------	----	-------	---------------

1 はかるを、文に合った漢字に直しましょう。

① 五十メートル走のタイムをはかる。

計る

② 身長をはかる。

測る

③ 体重をはかる。

量る

④ タイミングをはかる。

計る

⑤ 解決かいけつをはかる。

図る

⑥ 校庭の面積をはかる。

測る

⑦ 熱をはかる。

測る

2 あついを、文に合った漢字に直しましょう。

① 今年の夏はとてもあつい。

暑い

② 砂浜すなはまがあついで素足すあしで歩くことができない。

熱い

③ 分あつい本を読む。

厚い

④ あつい布団ふとんをかける。

厚い

⑤ かぜをひいて、体があつい。

熱い

⑥ 彼は人情かれにんじょうがあつい。

厚い

⑦ あつい湯を用意する。

熱い

国語 三一二	第五学年及び第六学年の内容 話し言葉と書き言葉②	名前	年 組 番	取り組んだ日 月 日
-----------	-----------------------------	----	-------	---------------

1 つとめるを、文に合った漢字に直しましょう。

2 おさめるを、文に合った漢字に直しましょう。

① 問題の解決かいけつにつとめる。

努める

② 会社につとめる。

勤める

③ 主役をつとめる。

務める

④ 看病かんびょうにつとめる。

努める

⑤ 早寝早起ねにつとめる。

努める

⑥ 委員長をつとめる。

務める

⑦ 銀行につとめる。

勤める

① 成功をおさめる。

収める

② 注文品をおさめる。

納める

③ 紛争ふんそうをおさめる。

収める

④ 国をおさめる。

治める

⑤ 税金ぜいきんをおさめる。

納める

⑥ 遺体いたいをひつぎにおさめる。

納める

⑦ 学業をおさめる。

修める

国語 四―一	第五学年及び第六学年の内容 漢字と仮名読み①	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

次の漢字の読みを右側に書きましょう。

【ぢ・じ】

①鼻血 はなぢ

②日常 にちじよう

③間近 まぢか

④地味 じみ

⑤縮む ちぢむ

⑥地割れ じわ

【ず・づ】

①深爪 ふかづめ

②湖 みずうみ

③三日月 みかづき

④片付け かたづけ

⑤貧しい まずい

⑥心積もり こころづもり

国語 四―二	第五学年及び第六学年の内容 漢字と仮名読み②	名前 年 組 番	取り組んだ日 月 日
-----------	---------------------------	-------------------	------------------

次の漢字の読みを右側に書きましょう。

【おお・おう・お・う】

①女王
じょおう

②通り
とお

③氷
こおり

④大きい
おお

⑤様子
ようす

⑥往路
おうろ

⑦横暴
おうぼう

⑧大げさ
おお

⑨当分
とうぶん

⑩尊い
とうと

⑪遠目
とおめ

⑫羊毛
ようもう

国語 五一	第五学年及び第六学年の内容 語句の構成、変化①	名前	年	組	番
----------	----------------------------	----	---	---	---

の熟語を、種類ごとに分けましょう。

作文	出発	古都
養蚕	労働	光線
	遠近	増減

①意味が対になる漢字の組み合わせ（例 強弱）

遠近 増減

②似た意味の漢字の組み合わせ（例 価値）

労働 出発

③上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある

組み合わせ（例 車内）

光線 古都

④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が下に来る

組み合わせ（例 見物）

養蚕 作文

じゅくご

の熟語を、種類ごとに分けましょう。

海底	身体	苦楽	明暗	開店
読書	木刀	先頭		

①意味が対になる漢字の組み合わせ（例 公私こうし）

苦楽 明暗

②似た意味の漢字の組み合わせ（例 仁愛じんあい）

身体 先頭

③上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある

組み合わせ（例 最善さいぜん）

海底 木刀

④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が下に来る

組み合わせ（例 帰国）

開店 読書

国語 六一一	第五学年及び第六学年の内容 語句の由来①	名前	年	組	番
-----------	-------------------------	----	---	---	---

一次の言葉の由来としてふさわしいものをあとのアからカの中から
 選び、（ ）の中に書きましよう。

- ① おやつ （ウ）
 - ② こめかみ （エ）
 - ③ うのみ （カ）
 - ④ しおり （オ）
 - ⑤ あめんぼう （ア）
 - ⑥ かえで （イ）
- ア とらえると水あめのようなおいがすることから。
- イ 葉の形がカエルの手に似ていることから。
- ウ 八つ時（午後三時ごろ）に食べたことから。
- エ 米など、ものをかむと動く部分であることから。
- オ 山道などで木の枝を折って、帰りの道のしるしとしたことから。
えだ
- カ 鵜うのように食べ物をかまないでのみこむという意味から。

取り組んだ日
月
日

国語 六―二	第五学年及び第六学年の内容 語句の由来②	名前	年	組	番
-----------	-------------------------	----	---	---	---

一 次の言葉の意味としてふさわしいものを下のアからウの中から
選び、（ ）の中に書きましょう。

①	和語	（ウ）	ア	古くに中国から入ってきた言葉。
②	漢語	（ア）	イ	外国（中国以外）から入ってきた言葉。
③	外来語	（イ）	ウ	もともと日本にあった言葉。

二 次の言葉は、和語・漢語・外来語のどれですか。○で囲みましょう。

①	ランチ	（和語・漢語・外来語）
②	昼飯 ひるめし	（和語・漢語・外来語）
③	昼食 ちゅうしょく	（和語・漢語・外来語）
④	スピード	（和語・漢語・外来語）
⑤	速さ はや	（和語・漢語・外来語）
⑥	速度 そくど	（和語・漢語・外来語）

国語 七―一	第五学年及び第六学年の内容 文や文の構成①	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

次の――の接続語の働きとしてふさわしいものをあとのアから力の
中から選び、（ ）の中に書きましょう。

- ① 雨が降^ふってきた。でも、傘^{かさ}はささないで行く。 （ア）
- ② バスで行くか。それとも電車で行くか迷^{まよ}っている。 （ウ）
- ③ 自由に遊んでよい。た^ただし、室内だけにする。 （オ）
- ④ 毎日走る練習をした。だ^だから、体力がついたのだ。 （イ）
- ⑤ 食後にイチゴが出る。また、リンゴも出る。 （エ）
- ⑥ 家に帰ってきた。そ^そして、宿題をやった。 （カ）
- ア 前と対立することを述^のべる。
- イ 前のことを理由や原因^{げんいん}にする。
- ウ 前か後か、どちらかを選ぶ。
- エ 前と同様のことを付け加える。
- オ 前^{おぎな}のことを補う。
- カ 事柄^{ことがら}を新^{てんかい}しく展開させる。

国語 七―二	第五学年及び第六学年の内容 文や文の構成②	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

次の文の主語・述語じゅつごを探して、その関係をあとのアからウの中から
選び、（ ）の中に書きましょう。

- ① 今日は、とても暑い。（ ア ）
- ② 気温も高く、湿度しつども高い。（ イ ）
- ③ 日差しが強いので、私わたしは帽子ぼうしをかぶった。（ ウ ）
- ④ 帽子が風で飛んだ。（ ア ）
- ⑤ わたしは、犬を飼かっている。（ ア ）
- ⑥ わたしが飼っている犬は、大きい。（ ウ ）
- ⑦ 犬が追いかけているボールは、赤い。（ ウ ）
- ⑧ 犬がくわえたボールを受け取った弟が、走る。（ ウ ）

ア 主語と述語が一組しかない。（単文）

イ 主語と述語が二組以上あって、同等にならないでいる。（重文）

ウ 主語と述語が二組以上あって、修飾関係や付け加える関係
などで同等ではない。（複文）ふくぶん

取り組んだ日 月 日

国語 八十一	第五学年及び第六学年の内容 敬語①	名前	年	組	番
-----------	----------------------	----	---	---	---

次の言葉の尊敬語・謙譲語を書いて、表を完成させましょう。

言葉		尊敬語	謙譲語
見る	ご覧になる らん	①おっしゃる	②申し上げる・申す はいけん 拝見する
言う	③いらっしゃる おいでになる		④うかがう
くをする	くされる くなさる		くいたす
食べる	召し上がる め		⑤いただく
聞く	お聞きになる		⑥うかがう

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

国語 八十二	第五学年及び第六学年の内容 敬語②	名前	年	組	番
-----------	----------------------	----	---	---	---

次の場面にふさわしい言葉をあとのアからオの中から選び、（ ）
の中に書きましょう。

① 校長先生が言った。（ **オ** ）

② 「お母さんは、出かけています。」（ **エ** ）

③ 「田中さんが来たと父に伝えておきます。」（ **イ** ）

④ （お客さんへすすめる）「どうぞ食べてください。」（ **ウ** ）

⑤ 木村さんに花束をあげた。（ **ア** ）

- ア 差上げた
イ めいらっしやった
ウ 召し上がって
エ 母
オ おっしやった

国語 九一一	第五学年及び第六学年の内容 表現の工夫①	名前	年	組	番
-----------	-------------------------	----	---	---	---

次の詩の表現の工夫としてふさわしいものをアからエの中から選び、
（ ）の中に書きましょう。

おいしい季節

コリコリ コリコリ
たき立ての ごはんの中に たくさん入っている
コリコリ コリコリ
ちようどいい歯ごたえで ほんのりあまい
春はやっぱり たけのこご飯
ようし
今年も一年 ぐんぐんのびるぞ

シャリシャリ シャリシャリ
シロップかけて くだものせて
シャリシャリ シャリシャリ

ひんやりとして とってもあまい
夏はやっぱり かき氷
キーン

食べると 体が冷ぞう庫みたいだ

ほくほく ほくほく
あつあつの 石の上にならんでる
ほくほく ほくほく
中が 金色にかがやいている
秋はやっぱり やきいもだ
ほうら

食べると 体がこたつみたいだ
ぐつぐつ ぐつぐつ
お肉に白菜 大根 にんじん いろいろ入れて
ぐつぐつ ぐつぐつ
みんなそろっていただきます
冬はやっぱり おなべで煮まり
たくさん食べて
今年も一年 ありがとう

「コリコリ」
①（ **ウ** ）

「シャリシャリ シャリシャリ」
「シャリシャリ シャリシャリ」
②（ **イ** ）

「体が冷ぞう庫みたいだ」
③（ **ア** ）

何行かまとめて、内容のまとまりをつくる。
④（ **エ** ）

- ア ひゆ
比喩（たとえを使った表現）
- イ 反復
- ウ ぎせいご
擬声語・擬態語（音や様子をたとえる表現）
- エ 連

国語 九一二		第五学年及び第六学年の内容 表現の工夫②		名前 年 組 番		取り組んだ日 月 日	
-----------	--	-------------------------	--	-------------------	--	------------------	--

文末の言葉によって、文の意味は変わります。
次の文は、どのような意味を伝える言葉になりますか。あとのアからオの中から選んで（ ）に書きましょう。

本を読む。

- ① 本を読みたい。 (イ)
- ② 本を読むつもりだ。 (エ)
- ③ 本を読みますか。 (ウ)
- ④ 本を読みなさい。 (オ)
- ⑤ 本を読みましょう。 (ア)

- ア 相手をさそう。
- イ 自分の希望を述べる。
- ウ 相手に質問する。
- エ 自分の意志を述べる。
- オ 相手に命令する。